

数式処理 7 巻 2 号について

数式処理学会誌「数式処理」7巻2号をお送りします。最近の各巻2号では、数式処理関係の国際会議の参加者の報告を掲載していますが、今号でも昨年夏にチェコとドイツで開催された IMACS-ACA'98 及び ISSAC98 に参加された方々に原稿をお寄せいただきました。これらの国際会議への日本人参加者が近年増加していることは非常に好ましいことです。これらの報告を読まれて、今後さらに多くの日本人研究者が国際会議に参加されるための参考にしていただければと思います。数式処理研究も国際的には従来からのアルゴリズム研究や数式処理システムの研究に加えて、数式処理システムをソフトウェア部品とみなして、各種ソフトウェアの統合をはかる動きが活発化しています。Problem Solving Environment の構築であったり、ソフトウェアシステム間のプロトコル開発です。数式処理システムに応じて、Mathlink、OpenMath 等々の研究がこれらに当たります。このような動向に丁度マッチした解説的論文「Open asir 入門」を小原、高山、野呂3氏の共著でいただきました。Maple 等国际的に著名な数式処理システムを対象とした非常に大規模な OpenMath プロジェクトに対して、今回のものは、国産数式処理システムである Risa/Asir を対象にしたものです。この種のソフトウェア工学的な研究は、国内では伝統的な数学研究者からはあまり高い評価を受けないのが通例ですが、この方面の研究に対する世界の数式処理研究者の関心は非常に高まってきているように思えます。国内でも、この種の研究により関心が高まることを期待し、そのための第一歩として、今号の内容が活用されることを期待します。